

ギダイ図書館見て歩き



図書館の玄関口



ビデオ観賞でリフレッシュ♪(AVルーム)



「24・TWENTY FOUR」がスラッ!!



グループ閲覧室



図書館外からでもアクセス可能(OPAC)

新学期が始まってから半年が過ぎ、すっかり秋の季節となりました。秋といえば食欲の秋、スポーツの秋…、と人それぞれだと思いますが、今回は「読書の秋」とかけて、長岡技術科学大学附属図書館(以下図書館)を紹介していきたいと思います。今回はアルバイト学生の方々の協力のもと、図書館の取材を行いました。

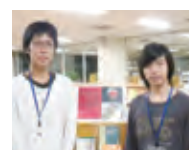
図書館に訪れる人の一番の目的は図書の閲覧、貸出です。現在館内には、和洋あわせて14万冊以上の蔵書があり、その大部分が3階の専門図書(約7万冊)と1階の科学雑誌(約6万冊)です。図書館に来る人は、これら膨大な蔵書の中から目的図書を選ぶわけですが、ジャンル毎に細かく分類されており、案外すんなり探すことができます。また、OPAC(蔵書検索サービス)を利用すれば、

目的図書の保管場所や在庫があるかどうかを瞬時に検索することもできます。館内は冷暖房完備で、個人用の机はもちろん、大人数で勉強するためのスペース(グループ閲覧室)も用意されています。そのため、学生たちは快適に時間を過ごすことができます。また、館内には採光用のガラス窓が多くあり、技大周辺が自然豊かなため非常に眺めが良いです。特に、冬の真っ白な雪景色は必見です!

DVDの貸出が無料でできるのも、図書館の大きな特色の一つです。貸出用DVDは、AVルームに並んでおり、ここでは貸出DVDやビデオの観賞もできます。勉強に疲れて、海外ドラマやアニメ映画を観てリフレッシュする、というのもいいかもしれませんね。ちなみに、学生のDVD貸出で一番多いのは「24

・TWENTY FOUR」だそうです。

他にも、学生リクエスト、電子ジャーナル検索、新聞の閲覧、ノートパソコンの貸出、無線LANの利用など、図書館の魅力は数え切れないほどあります。これを読んで興味を持たれた方は、図書館へ足を運んでみてはいかがでしょうか。



取材協力してくれた学生

電気電子情報工学専攻1年
五十嵐 大介君
(秋田高専出身)(左)
ビッティン チサツヤ君
(タイ出身)(右)



ギダイみてある記 取材班

材料開発工学専攻1年
横井 達也(茨城高専出身)(左)
中野 将太(長岡高専出身)(右)

編集後記

▼ 本学の学生は、高専や高校を卒業してから入学し、勉学に勤しんでいます。そして、国内外において、さまざまな分野で、幅広く活躍しています。本学の学生は、地味な印象を持たれがちですが、能力の高さやヴァイタリティーは他大学生に引けを取るものではありません。今回の特集で、彼らの真の実力の一端を垣間見ることが出来たと思います。

VOSの由来 本学のモットーである、Vitality, Originality, Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



長岡技術科学大学

VOS NO.154 [平成21年11月号]

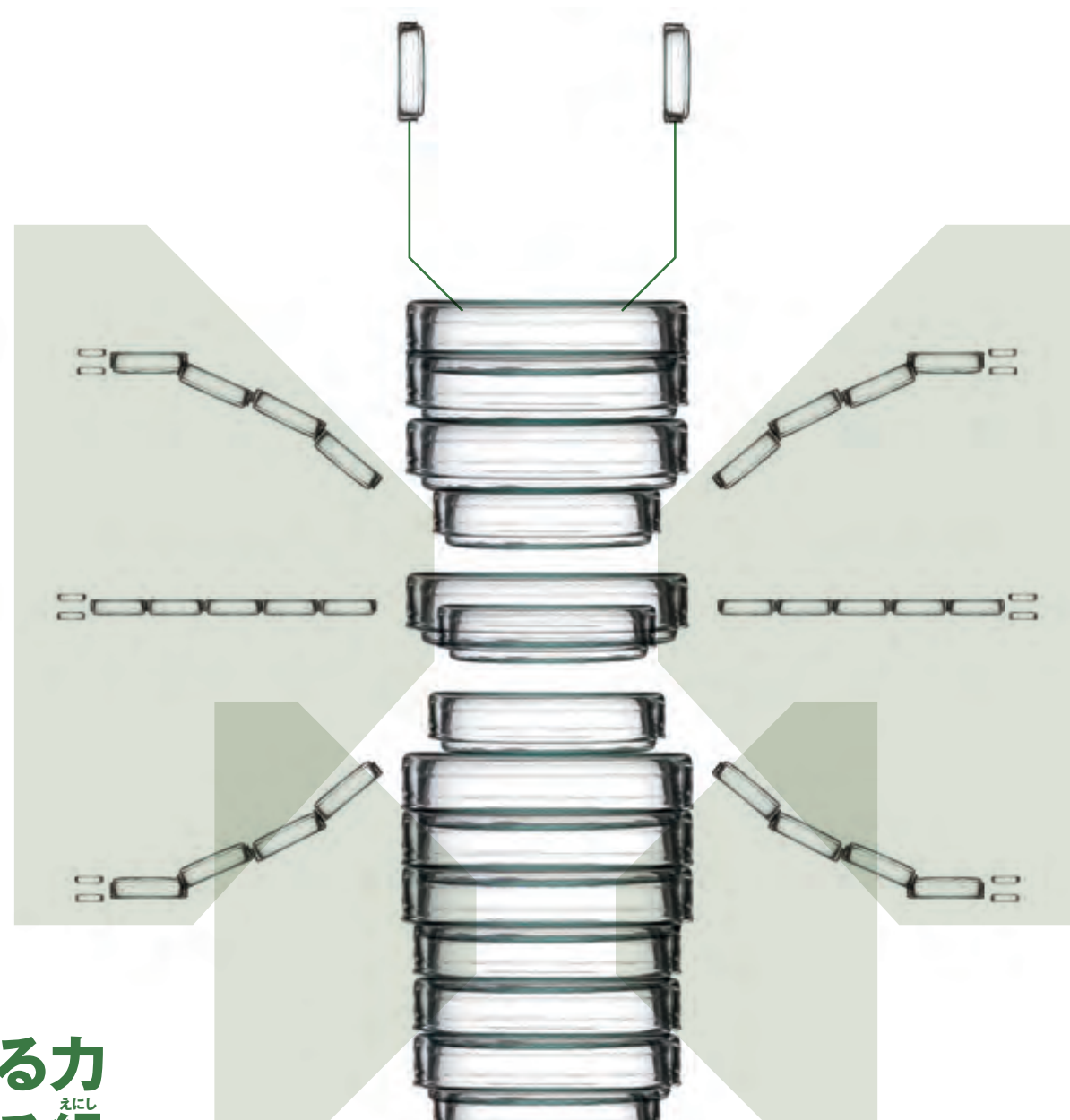
編集発行 長岡技術科学大学広報委員会[総務部 総務課]

◎本誌に対するご意見等は下記までお寄せ下さい。

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

Tel.0258-47-9209 Fax.0258-47-9000

E-mail : skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp URL : http://www.nagaokaut.ac.jp/



特集 繋がる力 広がる縁 活! 技大生

CONTENTS

02_ 特集:繋がる力 広がる縁 活! 技大生

14_ 私の抱負／行事報告

15_ 長岡の歴史／トピックス

16_ ギダイみてある記／編集後記

本学の学生は、勉強や研究のさまざまな分野で、幅広く活躍しています。

本号の特集では、「繋がる力 広がる縁 活! 技大生」と題して、国内外で活躍している彼らの様子を紹介していきたいと思います。



大相撲5月場所を見たあと国技館の近くで



サラマンカの語学学校



実務訓練先の研究室にて、試験片を研磨中



機械創造工学専攻2年

中島 正人

— MASATO NAKAJIMA

群馬高専
機械工学科
榎本研究室 出身

サンフランシスコ探訪紀

長岡に来てから早4年が経ちます。学部時の実務訓練や修士に進学してからの研究生活など、技大では様々な貴重な経験をさせてもらっています。そんな中、先日アメリカの国際学会で発表する機会を頂きました。

私にとって初めての海外、不安でいっぱいでした。まず英語。TOEICはおよそ400点。運だけで取れるレベルです。さらに先生の滞在は1日のみ。学会の期間中ほとんど一人で過ごさなければなりません。言葉の壁に危機感を覚えながらも5泊7日でサンフランシスコに行ってきました。

行った当初は気持ちの余裕がなく苦しい思いもしました。ですが1日居ればもう不安なんてどこへやら。お店に入り店員に「Hello!」と挨拶し、ごちない会話を言い注文をし、紙袋に入った品物を受取り表へ。バーガーキン

グ、スターバックス、フィッシャーマンズワーフ、ゴールデンゲートブリッジ。そんな、海岸近くでのジャンクフードとコーヒーばかりの観光生活が楽しくて仕方ありませんでした。もちろん、学会発表においても何十回と研究データを見直し発表練習を行った成果をそれなりに出せたと思います。

国際学会での経験は異なる文化を体感できたとても貴重なものでした。技大では有意義な体験ができるので、残りの学生生活も頑張りたいと思います。



もちろん学会発表も



海岸の桟橋にて



サンフランシスコのビルディングをバックに



毎日足を運んだフィッシャーマンズワーフ

スペイン語が面白い

バルセロナの大学での実務訓練が始まって1週間が経ちました(編集注:執筆時10月5日)。ここでは2月末まで超硬合金(WC-Co)について研究する予定です。

ここに来るのは、技大入学前からの夢でした。英語が嫌い苦手な僕は、スペイン語が理解できればバルセロナに行けるだろうと思い、高専5年生の時からスペイン語を勉強してきました。大学にはスペイン、ベネズエラ、メキシコなどスペイン語圏からの留学生がたくさんいます。彼らと毎日学食で昼飯を食べながらスペイン語に触れて少しずつ身につけました。留学生と話せば、一人より何倍も楽しく勉強できます。春休みの2、3月には、スペイ

ンに行ってサラマンカという町にある語学学校にも通いました。毎日、3時間の授業と2時間分の宿題を行い、また日々の生活を通してスペイン語がかなり身に付きました。

スペイン語は、スペインはもちろんブラジルを除く中南米などで話されている、英語に続いて2番目に主要な言語なので、英語とスペイン語が話せれば、国際的な場で役立つ大きな武器になると思っています。まだまだスペイン語、英語の能力が不十分ですが、こちらでの研究、生活を通して向上できればと思います。この実務訓練の経験が将来役立つようにできる限りがんばっていくつもりです。



機械創造工学課程4年

佐藤 基之

— MOTOYUKI SATO

長岡高専
機械工学科
大石研究室 出身



クリーンルーム内での実験風景



研究室メンバーと行ったバドミントン大会



学生奨励賞授賞式



MESSAGE

03

電気電子情報工学専攻 2 年
大島 穰

—
YUTAKA OHSHIMA

長岡高専
電気工学科 (現: 電気電子システム工学科)
片桐研究室 出身

≫≫ 思い出詰め込む研究生生活

私の所属する半導体工学研究室では、太陽電池やフラットパネルディスプレイ、LED、レーザーなどに使われる半導体材料やデバイスの「作る技術・手法」であるスパッタリング、CVD、MBE 法に新しい技術を融合し、オリジナルなプロセス技術を開発・研究しています。

半導体工学と聞くと、研究室にこもって実験しているイメージがあるかもしれませんが、様々な実験装置や部品を工作センターの旋盤やフライス盤を使って自分達で作ったりしています。

もちろん研究室の活動は研究だけではなく、研究室でのバドミントン大会や、ソフトボール大会への参加、飲み会やバーベキューなど様々なイベントがあり、盛りだくさんな学生生活です。

研究室のメンバーは学部3年生で研究室に配属されてから、多くの時間を研究室で共に過ごし、研究で行き詰まったり忙しくなったりした時にフォローしあい、苦楽を共にし、一生付き合える仲間になれたのではないかと感じています。研究室のメンバーや指導教員の安井先生とともに頑張った結果、電子・光学のための透明酸化物薄膜に関する国際シンポジウムで研究成果を発表すると共に、電子情報通信学会英文誌に論文が採択され、さらには電子情報通信学会信越支部大会で学生奨励賞を受賞するなどの成果を出すことができました。

修士修了まであと約半年ですが、残された時間を研究の仕上げのために有意義に使っていきたいと思っています。



MESSAGE

04

電気電子情報工学専攻 2 年
宮脇 慧

—
SATOSHI MIYAWAKI

詫間電波高専 (現: 香川高専)
電子工学科
三崎研究室 出身

≫≫ 楽しい学会発表

みなさん、「学会発表」というとどういうイメージをお持ちですか? 「世界最先端技術」? 技大には世界最先端が身近にあります。それを世界に向けて発表するのが学会発表です。私は修士でも、国内・海外の学会で研究成果を積極的に発表しました。学会はいろいろな場所で開催されるので観光気分満点ですし、研究で苦労した分だけ楽しまなくてはなりません。

毎日の研究は大変ですが、先生や研究室の仲間と相談しながら研究を進めていきます。研究の成果を論文にまとめることができたなら、いよいよ学会での発表です。初めての発表は緊張しますが、何度も発表を繰り返すことで度胸がつき、人前で話すことに慣れてきます。発表が終わったら、今度は楽しむ時間です。空いた時間で観光スポットに行ったり、おいしいものを食べたりして存分に学会を楽しみます。

研究で苦労した分だけ、ここで息抜きをすることでモチベーションを維持します。

私は地球温暖化を防止するパワーエレクトロニクス技術に関する研究を行っていますが、今年の5月には国際会議でスイスとドイツに行ってきました。そこで感じたことは、自分の研究のレベルが世界で見ても高いことです。私は英語が苦手なのですが、海外の学生とも何とか議論することができ、大きな自信になりました。また、この国際学会はこれまでの研究で苦労した分、存分に楽しむことができました。



発表は場数をこなすことが重要です



マッターホルンをみることができました



スイスの車窓から



発表が終わってほっと一息



田植えのボランティア



内定祝賀会



新潟県知事と握手



MESSAGE

05

材料開発工学専攻 2 年
新木 一志

—
HITOSHI ARAKI

群馬高専
電気工学科 (現: 電子メディア工学科)
辻研究室 出身

≫ 人との繋がり ~縁そして、絆へ~

私は、4年前にこの大学に3年次編入しました。昔を振り返ると、私が大学生活で一番良かったことは、沢山の友達ができということです。同じ高専で、他の大学に編入した学生を見ていると、他大学では編入生が少ないため、友達があまり作れないということがあります。しかし、この大学ではほとんどが高専生なので、沢山の友達がすぐにできます。私は、今現在まで沢山の人と出会ったおかげで、沢山の経験をさせていただきました。大学3、4年生の時は課外活動でのボランティア活動を頑張っていたおかげで、県知事公舎において新潟県知事とのお食事会を開いて頂きました。また、大学の制度である約4ヶ月の実務訓練の経験から人生設計もできたおかげで、この就職氷河期であっても第1希望の会社に、エントリー数4000人以上の中から16人

に選ばれて採用されました。研究室での研究において私は、国際学会を含め、7回の学会発表をさせて頂きました。私は、このような事を全て経験できたのも、人の「縁」があったからこそだと思います。人生は自分次第ではありますが、出会った友達次第でもあります。私にとって長岡技術科学大学で出会った友達は、今後も絆で結ばれたい仲間です。



国際学会



MESSAGE

06

建設工学専攻 2 年
中村 孝博

—
MICHIMIRO NAKAMURA

長岡高専
環境都市工学科
福田研究室 出身

≫ 大学生活から得られること

長岡高専から長岡技科大に編入学してから早くも3年半が経過し、就職活動も無事に終えた私は、現在研究を軸に学生生活を送っています。研究を軸に生活を送っているというものの、研究だけを行っているわけではなく、研究室のメンバーで春先にはソフトボール大会に参加したり、夏には全国的にも有名な長岡花火を見に行ったり、旅行に行ったりとイベントも大事にしつつ楽しい思い出も作っています。

さて、そんな私が何故長岡技科大へ進学したかという、教育カリキュラムの一つである5ヶ月間の長期実務訓練を非常に魅力的に感じたためです。私は、高専時から将来の仕事を考えたときに、グローバル化社会に対応できる人間になりたいと考えていたため、その有効な手段の一つとして長岡技科大に進

学して海外実務訓練を希望しました。海外実務訓練を通じて学んだことは、やはり異文化を重んじることが大切だということです。このことは、他国の学生とのルームシェアや国際シンポジウムへの参加などを通じて感じました。幸い就職先も海外事業に力を入れている企業に決定することができたため、今後、仕事でも海外実務訓練から得られた経験を活かしていければと思います。



カンボジアへ友人と旅行



研究室旅行(ラフティング)



マレーシアにて友人と



研究室対抗ソフトボール大会



今年度技大祭集合写真(筆者は後列右端)



追いコン



研究室オープンハウスでの集合写真



環境システム工学専攻 1 年
宮崎 航

WATARU MIYAZAKI

大阪府立高専
建設工学科(現:環境都市システムコース)
多田研究室 出身

楽しさ×研究=長岡技術科学大学

私は、環境・建設系の水文気象研究室に所属しています。この研究室は、雨や雪が降ると河川や山、街でどのような現象がどのようにして起こるのかを研究しています。高専4年のとき、オープンハウスでこの研究室で研修し気象に興味を持ったのがきっかけでこの大学を進学先として選びました。現在、冬季の気温分布に関する研究を行っており、この研究成果を雪氷研究大会(2009・札幌)で発表しました。

また技大祭実行委員会にも所属しています。技大祭とは毎年9月に行われる本学の大学祭のことです。私は昨年度実行委員長を務めました。実行委員長という立場はかなり大変なものがありましたが、『みんなで1つのものを創っていく楽しさ、そして成功したときの感動』という普通の大学生活を送っていれば味

わうことができない体験をすることができました。この体験が忘れられず、現在も研究活動が疎かにならないように続けています。

私は大学というのは自らが学び、楽しむ場所だと考えています。その環境がこの大学には整っています。私も先生から研究や資格(気象予報士)について教えていただいたり、研究室や技大祭関係などの先輩・同僚・後輩・友達と遊んだりご飯を食べたり毎日充実の日々を送っています。



学会



生物機能工学専攻 1 年
佐藤 令奈

RENA SATOH

福島高専
物質工学科
青柳研究室 出身

思いつき!

私は、「大学では何でも思いつきやってみよう!」と密かな野望を抱いて技大に入学しました。

いま一番力を入れているのは研究です。去年行った実務訓練では、研究所で世界最先端の研究に携わる仕事をしてきました。4ヶ月という短い期間でしたが、私にとって大きな自信となりました。技大の研究室では、高度好熱菌が作る蛋白質の熱力学的研究を行っています。大腸菌や枯草菌といったメジャーな細菌の蛋白質に比べ、未開拓な部分が多いのでやりがいのある研究です。また、今年9月には念願の学会発表を果たしてきました!多くの研究者と同じ土俵に立って自分の研究をアピール出来たことは嬉しかった

のですが、一方で自分の力不足を知り、まだまだ頑張らなくてはならないことを痛感させられました。これから研究を進めるうえで必要なことが明確になり、本当に良い経験になりました。

それから、私は和太鼓サークルに所属しており、長岡まつりをはじめとする市内の様々なイベントで演奏しています。施設をまわって演奏することもあり、幼稚園児からお年寄りまで、和太鼓を通して沢山のひととの触れ合いがあります。演奏後の達成感は勿論のこと、お客さん達の笑顔は貴重な財産になると思います。

卒業するまでに完全燃焼できるよう、大学生活を思いっきり楽しもうと思います。



和太鼓サークルのみんなと



研究室で休憩



実験中。熱力量を測定しています



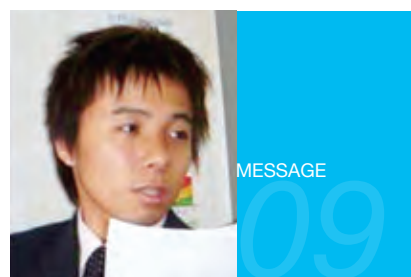
学会終了後、会場近くの寺院にて



研究室での研究風景



タイでの学会発表風景



経営情報システム工学専攻 2 年
笠原 統徳

MUNENORI KASAHARA

長野高専
電子制御工学科
中山研究室 出身

長岡技大での研究

長野高専を卒業後、長岡技大の学部3年に編入学して、早いもので4年がたちました。高専では、現在の研究とは全く別の分野の、半導体の勉強をしていました。大学院では、工場で製品などを作る場合に、どんな順番で作ればよいかという、好ましいスケジューリング方法を考える研究をしています。

大学院では、海外で行われる国際学会で、今までの研究成果を発表する機会があります。私の場合、修士1年生の時にタイとハワイで行われた国際学会へ参加しました。当然、国際学会では発表は英語でするので、事前準備では先生とマンツーマンで発表原稿の打

合せをします。原稿を作成していると、自分の英語力不足を実感しますが、原稿を作成することで英語力が身に付き、原稿が完成すると、達成感と次も国際学会で発表したいという意欲が湧きます。

また私の場合、研究成果を特許という形で申請をしました。特許申請をするための書類を作成する弁理士の方との打合せでは、研究成果についての細かい内容まで質問され、弁理士の方の幅広い知識に驚きました。

私は大学院での研究で多くのことを経験することができたので、長岡技大に進学して本当に良かったと思います。



情報・制御工学専攻 3 年

吉田 正亮

MASATAKA YOSHIDA

長岡高専
電気工学科 (現: 電気電子システム工学科)
矢野研究室 出身

情熱を持ってこだわり続ける

高専の卒研から現在の研究分野に関わり始め、編入学後も同じ研究を続けたい一心で勉強し、希望の研究室に入ってから6年が経ちました。途中で「ものづくり魂」が再燃し、研究から実験機器製作に目的が変わる時期を過ごしながらも、理解ある先生方と研究・教育環境に恵まれ、自由闊達、試行錯誤、自己研鑽の日々を送っています。

同じ現象や結果でも、着眼点が人により異なることを実感したのは国際学会に参加した時。文化や思考が異なる人たちから得た「なるほど!」という新しい見方、考え方は、見習うべき点が多くありました。その一方で、友人達が社会の第一線で活躍している姿を

見る度に「自分は何故ここにいるのか」と自問する日々は、研究活動に対する心構え…「楽しい」だけではない、明確な目的意識を確認されているようにも思いました。

先に巣立っていく後輩達を見送りながらも、自らの目標に向かう中で辿り着いた「自分の強みは何か、どのような気持ちで何を成し遂げたいか」に対する答えは、就職活動でその真価が問われました。

「イヤホンで聞いているのに、スピーカで聞いているみたい。」研究室にあるデモ音源の改良を重ねながらも、これを初めて聴いたときの驚きは今でも忘れることなく、研究を続ける原動力になっています。



実験室にて



AES 126th Convention (Munich, Germany)



研究室イベント (BBQ2009)



どこまでも行けそうなインドの海岸



修士卒業式



原子力研究所の友人と



MESSAGE

材料工学専攻 1 年
菅間 良太
—
RYOHTA KAMMA

一関高専
機械工学科
沼崎研究室 出身

5年間の大学生活を振り返って

高専で機械科だった私が、当時の指導教員の勧めで本学に編入してから4年半が過ぎました。本稿を依頼されたことを機会に、私の一人一倍長い学生生活を思い出してみたいと思います。本学に編入したばかりの3年生、数学や英語などの基礎教科、様々な専門科目に圧倒されましたが、友人たちと必死で単位を集めました。その年の9月には早くも研究室に配属され、そこでは指導教員の岡崎教授に自分で考えることの重要性を教えられました。4年生はほとんどの時間を研究室で過ごし、自由にやりたい研究をさせてもらいました。本学の教育の特色である9月からの実務訓練はインドのインド工科大とインディラ・ガンジー原子力研究所に行き、研究と海外生活を通して自信と経験を得ました。帰国後は修士課程に進学し、再び岡崎研究室で修士論

文に向けて研究を行いました。研究計画から論文までを初めて自分自身の手で行うことは、まさに困難の連続でしたが良い経験でした。その後博士課程に進学したのですが、現在になり、これまで苦労した数学や自分で考えることが日常使う「技能」として役立っています。本学は決して楽な大学ではありませんが、学生自身にやりたいことがあれば、可能性を広げられる大学です。面白い研究がしたい方は門戸を叩いてみてはどうでしょうか。



研究室恒例の山登り



MESSAGE

エネルギー・環境工学専攻 3 年
吉仕 彰
—
AKIRA KISHI

長岡高等学校
普通科 出身

充実した研究生生活

私は、地元の長岡高等学校から長岡技術科学大学へ入学し、3年半勉学に勤しみ、その後この大学の特色である実務訓練を経験しました。その経験を活かし、マスターからドクターまでの計5年間、燃料電池の実用化へ向けての研究を継続して行っています。研究を行うにあたり、研究費を国から援助して頂くため、その申請書類を研究室の先生を補佐する形で書きました。このようにして得た研究費で最新の研究装置を購入し、その装置を用いた研究で、燃料電池の劣化を抑えることができる世界初の発見をすることができました。

得られた成果は、国内・海外の学会で発表を行ったり、英語の論文を書き投稿したりすることで、私の行った研究内容を国内のみならず世界中に知って頂いています。その中でも、学会発表を行った際に私の研究が認められ、

最優秀発表賞を頂くことができ、非常に感激しました。

現在、私はドクターの学位を取得するため、寝る間も惜しんで研究を行っています。しかしながら、マスターの頃から研究をやられている感じは全く無く、目的意識をしっかりと持ち、研究に取り組んでおり、ときには研究室内の同期の仲間や後輩と飲みに行ったり、遊んだりして、非常に充実した学生生活(研究生生活)を送っています。



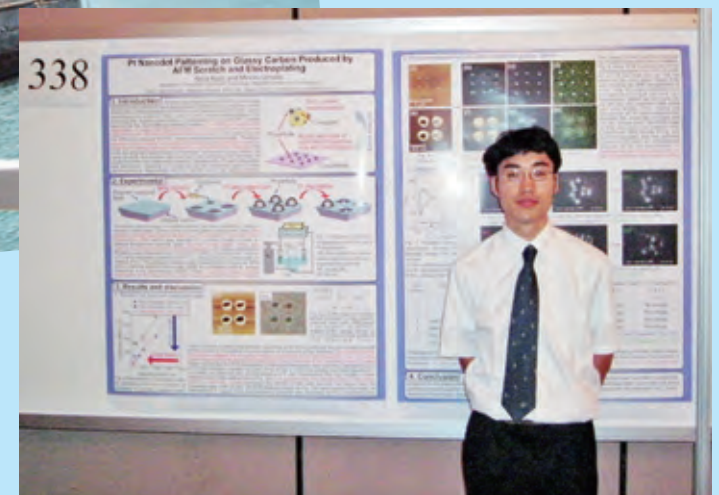
走査型電気化学顕微鏡による燃料電池劣化機構の解析



国際学会(ハワイ)の合間のひととき



最優秀発表賞を頂いて



国際学会(ハワイ)のポスター発表の風景

【私の抱負】

新准教授から、目指している研究や今後の抱負を語ってもらいました。



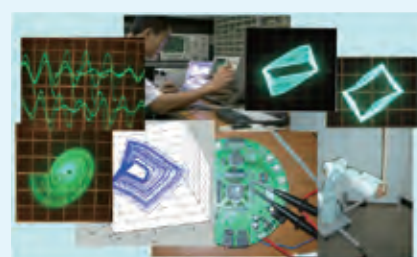
真っ直ぐな気持ちで

電気系 准教授
坪根 正
TADASHI TSUBONE

専門は「非線形ダイナミクス」をキーワードとした工学分野を得意としております。例えば、非線形な演算素子であるニューロンによって構成される生体の脳の情報処理原理を明らかにしそれに習ったシステムの実現や、自然界や工学系に見られる従来(＝線形な)手法では扱いが困難とされている非線形な複雑現象を正面から取り扱うことによって、これまでに無いパラダイムの創生を目指しております。

私は、これまで本学電気系の助教(助手)として、研究、教育に携わって参りました。本学の研究環境はすばらしく、アクティビティも高く、特に学生さんのポテンシャルは何処に出しても恥ずかしくないものがあると思います。10月1日より、更に気持ちを引き締めて、この環境の中

で本学の教職員の皆様や学生さん達と共に教育、研究へと邁進していく所存です。そして、長岡技術科学大学から世の中へ貢献する成果を生み出して行く決意を固めつつ、それが出来ると確信しております。どうぞ今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



人工ニューロン回路。非線形制御系などで観られる非線形現象は、日々の実験で確認、再現され、新たな理論構築への礎となります。

長岡の歴史探訪

【戦国編】

生物系 准教授
高原 美規

YOSHINORI TAKAHARA



長岡の城址



樹形城からの見晴らし



栖吉城本丸址



与板城の一本杉(伝 直江兼続お手植え)

長岡の城址 兵どもが城の跡

越後の龍、上杉謙信は、もとは越後守護代の長尾家の生まれです。長尾家は、関東管領の上杉家の縁戚として勢力をもち、越後には三条の三条長尾家を宗家として、魚沼の上田長尾家、長岡の古志長尾家の三家がありました。

長尾景虎、後の上杉謙信は、三条長尾家の為景を父に、古志長尾家の虎御前を母とします。越後の主城は春日山城ですが、長尾家の根拠地は長岡周辺の中越地方であり、上杉謙信や家臣ゆかりの城址が本学周辺にも多く残されています。

栃尾城は、14歳で元服した景虎が戦国武将としての活躍を始めた城です。古志長尾

家の本拠は蔵王堂城でしたが、戦国時代にはより守りの堅い栖吉の城山に栖吉城が築かれ、謙信の母の虎御前は、その城館で生まれました。また長岡西部の樹形山には、上杉四天王の一人、甘粕景持の樹形城があり、謙信の後を継いだ景勝の家宰、直江兼続は与板城山の与板城の城主でした。

これらの城は天守を持たない山城で、城址といっても堀切や土塁などが残るのみですが、どの城も市街地からほど近い丘陵上にあり、城の配置図も整備され、城址までの道はハイキングコースとなっています。城址に登れば兵どもの見た光景を、今も偲ぶことができるでしょう。

行事報告

第5回父母懇談会

9月13日(日)に第5回父母懇談会を開催し、父母等340名の参加をいただきました。

全体会では、本学の近況や進学・就職状況についての説明を行った後、木村宗弘准教授の公開授業「エコな液晶ディスプレイ」が行われました。ユーモア溢れるわかりやすい講義で、父母の方々は熱心に聞き入っていました。

また、個別面談では、各課程の会議室等で学生の修学状況や就職の動向等について面談を希望された父母の方々と率直な相談が行われました。



第29回技大祭、第11回長岡国際祭り

今年度の技大祭は、『enjoy』をテーマに、9月12日(土)、13日(日)の2日間にわたって開催されました。

当日は、屋外での演舞や模擬店を始め、OBが勤務する長岡市内の企業出店、お笑いライブ等が行われ、学生が企画立案したものを十分に楽しんでいただきました。研究室の公開等も好評で、来学された子供たちを中心に大いに夢を与えることが出来ました。

また、本学留学生会主催の長岡国際祭りも、『Challenge & Chance』をテーマに、技大祭と同時に開催されました。オープニングのステージでは、長岡市の大野勉副市長からご挨拶いただいた後、各国の民俗芸能などが披露されました。さらに、各ブースでは各国自慢の料理やパフォーマンスが繰り広げられ、地域の方々との交流を深める良い機会となりました。



トピックス

TOPICS

新着ニュース

- 2009.11.09 教育 GP「UDに立脚した工学基礎教育の再構築」講演会を開催しました。
- 2009.11.09 韓国・釜山国立大学教授が来学されました。
- 2009.11.06 地元(深才地区)懇和会を開催しました。
- 2009.10.16 第2回新技術発表会を開催しました。
- 2009.10.06 第2回教育活動表彰, 研究・産学官連携活動表彰を行いました。
- 2009.10.05 文部科学省の坂田事務次官が来学されました。



新技術説明会での技術相談の様子